

平成 27 年度 第 3 回高知市総合教育会議 議事録（要約版）

- 1 日 時 平成 28 年 1 月 25 日（月）
開会：午後 3 時 00 分 閉会：午後 4 時 00 分
- 2 開催場所 総合あんしんセンター 3 階大会議室

3 出席者

（構成員） 高知市長 岡崎 誠也
高知市教育委員会
教 育 長 横田 寿生
委 員 谷 智子
委 員 山本 和正
委 員 西森 やよい
委 員 野並 誠二

（事務局） 総務部長 山本 正篤
総務部副部長 森田 洋介
総務部総合政策課長 林 充
総務部総合政策課長補佐 村田 憲司
総務部総合政策課文化振興担当係長 藤原 美穂

4 議 題 高知市教育大綱の策定について

5 議事の経過

- 高知市教育大綱修正案について
事務局から資料に沿って説明

- 協議

- 乳幼児期から就学前までの教育の重要性について

- 学校・家庭・地域との協働による教育力の向上について

（谷 委 員） 基本目標Ⅳの「学校・家庭・地域との協働」で、地域の保育園や幼稚園を含めた様々な教育機関、校種の連携を含めた協働と考えることもできるので、基本目標としなくてもよい。

（山本委員） 「学校・家庭・地域との協働による教育力の向上」という言葉には、すべての大人の教育力というものが含まれている。学校教育とそれを支える地域の教育力、すべて網羅されている。

（野並委員） 乳幼児期から就学前までの教育の重要性に関して、そこに注目していくということで、言葉として具体的に出していっ

でもいいのではないか、という思いはある。

(横田教育長) 事務局で議論を深める際には、自分としての意見も出している。今回の修正案が一番自分の考えに近いところである。

(岡崎市長) 基本目標Ⅳについては修正案のとおりとしてよろしいか。

(一 同) 異議なし。

(岡崎市長) 保幼小連携など就学前教育については、大枠を基本目標Ⅳで受けて、個別の基本方針を立てるときに入れ込んでいくという整理をしたい。

○子どもの貧困の連鎖を断ち切るということについて

○困難を乗り越える精神力等の育成に関することについて

(谷 委員) 子どもの貧困の問題は重要であるが、貧困という言葉を入れて大綱を作るかという点、それは少し違うと思う。ただ、このことは重視しなければならない。また、新しい指導要領の検討の中でも大切にされているのが、単なる「生きる力」ではなく、「生き抜く力」「社会を切り拓く力」ということ。

今後、防災など様々な問題が子どもたちのうえに降りかかってくる、予測できない社会の中で、子どもたちが切り拓いていく必要がある。

(西森委員) 貧困の連鎖を教育の側面から断ち切るということについては、現行計画には直接的にはなかったと思うが、それで間違いないか。チャレンジ塾はやってきているし、福祉部門でも取組はされていたと思うが。

(土居次長) 考え方としてはあったが、直接的に「断ち切る」という言葉は文言として使用していない。

(西森委員) 今までも充実していたとは思いますが、改めて加わる部分かと思う。貧困の連鎖をどう断ち切るか、あるいは子どもたちの心の貧困、夢も希望も持てない、根本的な衣食住が充足しておらず、学校の勉強に向かうどころではないという状況をどう断ち切っていくか。一方で、子どもたちを皆で育て、きみは一人じゃないというメッセージを与えるのは基本目標Ⅳの「学校・家庭・地域との協働による教育力の向上」という部分になるのではないか。「困難」に関する問題についてはⅢの中で完結させるのではなく、Ⅳの中にも取り込んでいいのではないか。

(野並委員) 谷委員の発言にあった言葉も入れて、もっと確かなものにしていければ。

(山本委員) 学校教育を終わって、社会に出て、社会の中でがんばれる、通用する子どもの育成、困難に直面したときにどのように解決するかを考えると、「生き抜く」「切り拓く」という表現のほうが、強くインパクトを与えるのでよいと思う。

- (横田教育長) 今の子どもたちが、なかなか壁を乗り越えられない、突き破れない、心が折れやすいという現状を考えると、しなやかに対応できるようなこともどこかに入っていたら良いかと思う。
- (谷 委員) 「社会を生きる人づくり」については、「生き抜く」とか、「切り拓く」という言葉を入れたいと思う。
- (岡崎市長) 「切り拓く」という言葉は、ちょっと重い気がする。
「社会を生きる人づくり」の部分については、次の地震などを考えると、強めにしたほうが良いと思う。どんな災害があってもどんな困難があっても生き抜かなければならない。
- (山本委員) 言葉の意味というのは人によってそれぞれ受け取り方が違うと思うが、「社会を切り拓く」「社会を生き抜く」このどちらかだと考えると、「生き抜く」という表現のほうが、どの子どもたちにも通じやすいのではないかと感じる。
- (野村課長) 市の教育振興基本計画を検討する際に関わったが、その際にこの文言については「生き抜く」「困難を乗り越える」「切り拓く」を含め論議があった。最終的にはすっきりした表現ということで「社会を生きる人づくり」という表現になった。目標として掲げるときにどうなのか、「生き抜く」など力強いところはあるが、他の目標とのバランスもあわせて議論をした経過がある。
- (岡崎市長) 「生きる力」というのは、文科省のほうでずっと使っている言葉であるが、この「生きる力」というのは、東日本大震災の前から使っているのではないか。
- (土居次長) ご指摘のとおり。この言葉は、前々回の学習指導要領の中でもいわれている言葉である。
- (岡崎市長) 東日本大震災は国難であって、まだ完全に乗り越えられていない。また原発の問題もあるので、多くの子どもたちが、ふるさとの学校に帰れず、別の場所で精一杯がんばって生活し、教育を受けているという状況がある。3.11の前と後とは、「生きる力」の意味合いが違うと感じる。やはり、「生き抜く」という言葉を入れておいたほうが良い。3.11を受けて、また南海トラフ地震のことも考えて少し強めの表現のほうがよいという意見が多いので、その意見を尊重したい。
その手前に「困難を乗り越え」という表現を入れるかどうか。一人ひとりそれぞれに困難はあるので、「困難を乗り越え」という表現があってもいいと思うが。
- (西森委員) 「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」という表現がよいと思う。夢・希望・志を、持ち続けることだけでもかなり困難なことだと思う。夢・希望・志を持ち続けながら生きていくことができれば、それは困難を乗り越えるとい

うことが含まれるのではないか。

また、困難を乗り越えるのに、しなやかに行くのか体当たりでいくのか、その場その場で選びながら生き抜いていく。ということで、この案にすべてが含まれているのではないかと思う。

(野並委員) 長文でいいのではないかと考えている。例示されている案はすべていいので、一つにするというのであれば長文で、ここに出てくるキーワードを全部盛り込んでもいいのではないか。

(山本委員) 「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」がよいと思う。生き抜くという表現の中には、いろんなことに対面してそれを乗り越えてということが含まれていると思う。

(谷 委員) 「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」がいいのではないかと思う。

(岡崎市長) 長文にしないほうがよいというご意見が多く、「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」がよいというご意見が多いのでこれを最終案として採用したい。

○全体を通しての意見

(西森委員) 基本目標の順番はこれで良いか。1番目が心身、2番が主に学校での学力、3番は人間の魂の部分、4番が今回の修正で、育む力の醸成、5番が知識・技能、6番が生涯学習、7番が文化に関する事となっている。並べ方によって何らかのメッセージが出てくるのではないか。もとのものについては考えがあってこの並びにしているのではないかと思うがどうか。

(野村課長) もともとの教育振興基本計画では、知徳体のうちの徳と体の部分が基本目標のⅠ、Ⅱが知を現しており、次にⅢは「人づくり」、Ⅳは学校としての組織自体が大事だということで「学校づくり」としている。

(谷 委員) 学校教育だけを考えるのではなく、高知市全体として考えたときに、まず、どんな人間を育成したいのか。Ⅲをトップに持ってくるべきではないか。その次に心身の健康と学力がきて、4番目に地域や幼児教育などの広い教育、その次に青少年の教育、生涯学習・スポーツ、そして文化。そんな順番が望ましいのではないか。

(山本委員) 基本的に子どもたちの学習、教育を主体に考えるのであれば子どもたちが先に来るべきではないかと思う。

谷委員が言われるように、人づくりというのはいろんなことで優先される事柄ではあるのではないか。

(野並委員) 一番強調したいものが前にくるという考え方でいいと思

う。豊かな心が一番前でもいいのではないか。

(岡崎市長) これまでの議論の中で、基本目標のコンセプトがⅢにあると思う。ⅠからⅦまでの中で、芯となるのはⅢではないかと思うので、先頭にしたいほうがよい。

他の並びについてはどうか。

Ⅴの「未来に翔る土佐っ子の育成」というのはここで良いか。少し漠然として分かりにくい感じがある。

(西森委員) 施設整備というのが「未来に翔る土佐っ子の育成」に入っている。耐震化は重要な課題であり、その他教育環境の整備は必要なので、それはどこかに入れる必要があると思うが、「未来に翔る土佐っ子の育成」に入るものなのか。

(岡崎市長) 順番はここでよいとして、「未来に翔る土佐っ子の育成」という言葉はかなり広いので、基本方針を作る段階で考えていく必要があると思う。そこに何をを入れていくのか。教委で議論・整理してほしい。

大事な部分はⅠからⅣにあって、生涯学習と文化はこの位置でよい。結果的にⅤが浮いた感じだが、ⅠからⅣまでで受けきれない部分をここで受けるという意味で、文言としては残しておいたほうがよい。基本方針をつくる際に整理すること。

(谷 委員) 「未来に翔る土佐っ子の育成」というのは、「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」と非常に密接につながっている。基本目標というのは、ぱっと見て大体内容が分かるようなものである。トップに「夢・希望・志をもって・・・」とあって、また似たような基本目標となるので、例えば文末に「環境づくり」という文言を入れておくと、施設環境であるとか、青少年の様々な問題への対応だとか、もう少し広く捉えられるのではないか。

(岡崎市長) 残す方向で整理するが、表現をどうするかは事務局と協議して、個別に確認させていただく。

●決定事項

- 基本理念については修正しない。
- 基本目標修正案について、次のとおりとする。
 - ・基本目標Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ，Ⅵ，Ⅶについては，修正案どおり。
 - ・基本目標Ⅲについて
 - 「夢・希望・志をもって社会を生き抜く人づくり」とする。
 - ・基本目標Ⅴについて，表現を検討のうえ，事務局で調整する。
- 基本目標の並び順について，修正案のⅢを先頭にする。
 - ・新しい並び順・・・Ⅲ，Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ，Ⅶ